

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		06 04 01	中期総合計画主要施策番号		1-04、4-02		担当課	部・課	環境部自然保護課		
事業名		公園管理事業				内線		2778			
						E-mail		shizenhogo@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	利用者が良好な自然に親しむことができるよう自然公園を適切に管理し、その利用を通じ利用者の自然保護意識の向上を図る									
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 自然公園は優れた自然の風景を保護するとともに、県民の休養等に資することを求められている。									
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 一部に自然公園内での不適切な行為や自然保護に対する意識が充分とは言えない事例が見受けられる。									
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 自然保護レンジャー等の巡視活動や、自然保護センターの設置運営により、公園内の巡視や利用者への指導・情報提供を積極的に行う必要がある。									
	事業内容	・自然公園の巡視等を行う自然保護レンジャーの委嘱、研修 ・自然保護センターの管理運営(乗鞍、美ヶ原、志賀高原、霧ヶ峰の4箇所) ・自然公園の管理									
実施期間	S59 ~		根拠法令等	自然公園法、県立自然公園条例他							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価		
	自然環境の保全、整備、自然保護意識の向上により、県民の保健、休養、教化に資する。		自然保護レンジャーによる公園巡視活動により適正な利用指導が行われる。自然保護センターの利用により、自然保護思想の啓蒙と普及が図られる。			自然保護センター来館者数はやや減少したものの、自然保護レンジャー活動日数はほぼ前年並みであり、適切な公園利用と自然保護意識の向上に効果が発揮された。			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要				
	最終予算額 (A)		千円	13,740	14,061	14,166	国庫・県単	県単			
	決 算 額 (B)		千円	12,905	13,729		実施方法	直接、委託			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	12,511	13,387	12,666	歳出節別内訳等	報酬:3,684 委託料:3,428 負担金:1,314			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	4.10	4.10	4.10	(単位: 千円)				
	概算人件費 (C)		千円	29,274	29,311	29,311					
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	42,179	43,040	43,477						
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績				
	自然保護レンジャー委嘱数		人	457	455	500	・自然保護センター数 4箇所				
	自然保護レンジャー活動日数		日	2,859	3,342	3,200					
	自然保護センター来館者数		人	112,727	101,515	112,000					
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明								
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・団塊の世代をはじめ、中高年層の登山や自然への関心は高く、今後も公園等の利用者増加が見込まれる。 ・自然保護センターはエコツーリズムやボランティアの拠点として活用が期待されている。県が管理運営しているが、引き続き市町村への移管等についても検討する。 ・自然保護レンジャーの巡回指導により、自然保護意識の向上に一定の効果があったが、活動報告データの有効な活用を図る必要がある。				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり						
	課題の総括		自然保護レンジャーの委嘱数や活動日数を単に増やすだけでなく、資質向上と活用を図るとともに、活動データの有効活用を検討する必要がある。 自然保護センターについては、公園の利用者や自然保護ボランティアの拠点として引き続き活用していくとともに、エコツーリズム推進や管理運営等について、地域とともに検討する必要がある。								